

西村 幸夫 (國學院大學観光まちづくり学部長・教授)

建畠 哲 (京都芸術センター館長)

菅谷 富夫 (大阪中之島美術館館長)

松岡 恭子 (株)大央代表取締役社長、スピングラス・アーキテクト代表取締役)

河野 まゆ子 (株)JTB総合研究所 執行役員 地域交流共創部長)

(敬称略、順不同)

「第2回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

■ 魅力向上に向けた各施設のあり方

- ・各施設の役割を明確にし、それに応じた必要な機能を整理すると、伝わりやすく、優先順位もつき、具体的な機能も整理しやすい。また、連動した効果的な運営も期待できる。
- ・現館の調査研究機能は、蓄積してきた調査資料の保管に加え、新たな資料の集積、アーカイブ、ライブラリー機能等を充実させることが重要。これと連動した資料展示や、デジタル等を活用した展示も考えられる。
- ・現館の調査研究機能は、研究内容の公開スペースや海外・アジアの研究者の滞在拠点等として活用でき、拡充先での魅力的な展示を支えることで、市民へ還元し、国際的な存在感も示すことにも繋がるため、魅力ある素晴らしい研究施設になればよい。
- ・美術史の学科を持つような芸術系大学と提携して、大学生が勉強・研究しやすい常設のスペースが現館にあるのもよい。
- ・拡充先と現館に展示室があることで、福岡アジア美術トリエンナーレのような、求心力・話題性・祝祭性のある大規模な展覧会が両施設で開催できる。各施設の機能を明確に分け、特色を持たせることが重要であるが、2つの施設が共存することで、相乗効果が期待できる。
- ・近年劇的に変化するアジア美術の中で、福岡が存在感を示すには他国にはない独自性が必要であるが、現館と拡充先で併せて活動を充実させれば、他国にない求心力が持てるだろう。

■ 拡充先の施設整備の基本的な考え方

(建築と景観について)

- ・拡充先の地上部は、市民に親しまれる都心の公園で、そこに地下の美術館への入口を設けられるのは非常に良い条件で、入口をシンボリックにしたり、地下から地上へモニュメンタルなものを配置するなど工夫することで存在感を示し、視認性も高めることができる。
- ・美術館と地上の公園の雰囲気が一体化することが望ましく、公園の担当部署と連携して整備範囲を調整しつつ、美術館ができることによって、居心地の良い、文化的な雰囲気のある場所になればよいと思う。
- ・美術館の入口は、外光が入る広場のようなイメージで作るとよいのでは。美術館に無料で入れるスペースがあって、上の公園と下の美術館に誰でも行き来できるような形になればよいと思う。
- ・公園側からのアクセスを高めながらも、作品の保全管理の観点より、外部との動線をどこで分けるかは、十分に検討する必要がある。
- ・建築家の発想を取り入れることで非常に魅力的な空間になると思われる。駐車場から美術館への用途転換は話題性があり、設計手法次第では世界の建築家も関心を持つのでは。公園と地下を一体化したコンペ等を実施すると、建築家や公園の設計に携わる人にとっても魅力的な挑戦課題になると思う。
- ・今後の設計段階で美術館としての意図を伝えられるように、現段階でやりたいことを強いメッセージ性を持って整理し、設計要項に反映させていくことが望ましい。

(まちとの連動やソフト事業について)

- ・施設整備の基本的な考え方の項目は、ハードのデザインに影響していくと思うので、優先順位をつけて整理することが望ましい。既存構造物を活用してCO2排出を抑えるエコロジカルな観点と、公園と一体化して、文化的な環境を天神に広げる観点は重要。
- ・拡充先に美術館ができることで、周辺の文化度が上がり、まちの格を高める起爆剤となることを期待する。
- ・拡充先の周辺には、一般的なホールやカフェなどはあるため、それらを設ける場合は美術館活動に必要な機能、空間を整備するべき。
- ・「学び」や「出会い」を提供するには、事前にオンライン等を通じて、実際に美術館に行きたいと思わせるきっかけを提供することが重要。そして実際に来館した際には期待をさらに上回る体験を提供するといった、一連の流れをハードの整備とあわせて連動させるべき。

■ アイデア収集の実施状況について

- ・今後は、市民などを対象に警固公園をどうしていきたいか、意見募集をして、まちの話題になるぐらい盛り上げていく必要があるのでは。
- ・周辺事業者や、同じまちで活動する人たちからもヒアリングしていった方がよい。

「第3回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

■ 拡充先における施設整備について

(アジア美術館の機能分担、拡充先における施設整備について)

- ・ 拡充先の「展示機能」はコレクション展だけでなく、特定のテーマに基づいたり外部との協力によって実施する企画展や特別展などの展覧会も開催するだろうから、それがわかるような表現にした方がよい。
- ・ 拡充先の「調査研究」については、誰に対しての機能か、そこでどんな活動をしてほしいかを考えることが重要で、展覧会に関連した資料を備えるなど、それを踏まえて諸室を検討したほうがよい。
- ・ 「展示」について、拡充先の立地を踏まえると、アフターMICE、レセプション会場や夜間の利用等、ユニークベニューとしての活用が想定され、そういった利用にも対応できる作品保護やセキュリティの視点等も想定しておく必要があると考える。
- ・ 地下が安全なことは大前提だが、地上に一時保管庫を配置することで、二重三重のバックアップ機能として、避難場所的に備えておくことは必要かもしれない。
- ・ 拡充先は街中に位置し、美術館を訪れた後に公園や飲食店で休憩して、再び館内に戻るといった使い方が想定される。そういった出入りのしやすさや運営を考えることが大事と考える。
- ・ 設計をする段階ではアートと緑を軸にした都市デザインをイメージしながら、メインエントランスの配置を考えたりするので、敷地の周辺を分析した資料を充実させることが大事だと思う。

(拡充先の利用計画)

- ・ 公園や周辺施設との関係を踏まえ、エントランスや搬入口の整理を丁寧に検討すべき。特に、搬入口は公園という開かれた場所にバックヤードを設けるので十分な検討が必要。
- ・ 現状での人の流れや歩行者数に基づき動線を考えるのが最適とは限らず、カテゴリ別（市民や観光客等）や時間帯別の人流、夜間の人の滞留場所等を把握した上で、来館者とその他の歩行者との交錯や、夜間のセキュリティ等を考慮し、新たな動線を戦略的に検討すべき。
- ・ 何気なく美術館に立ち寄った人が展示室外でもアートを感じ、引き込まれるようなデザインにすると良い空間ができるかもしれない。
- ・ 公園との連携・一体化の観点から、外光が入る空間や開かれた空間を設けることは実現してほしいが、セキュリティとの両立の課題もあるため、それを考慮した計画としてほしい。
- ・ 一時保管庫のような施設も含め、地下に全ての機能を収めることは難しく、半地下や地上に一部の建物が出てくる場合、公園景観へのなじませ方や緑化の取扱い等を検討する必要がある。意匠性が高く、アートを感じる施設、空間にするための設計の条件をよく整理すると、国内外の建築家から面白いプランが出てくるだろう。
- ・ 周辺が賑わいの場所であるということを踏まえて、美術館の開館時間を考えていくべき。展示室と展示室外の使い方を工夫して、展示室内外で開館時間を分けることも考えられ、事前に考えた上で設計の条件を決めていくと良いと思う。
- ・ 天神全体の都市の特性として地下街があり便利であるため、そことの連携も大事。地上だけでなく地下からも入りやすい計画とするのが肝要だと思う。周辺との連携は、とても大切だと思う。

■ 施設拡充に向けた事業手法の考え方について

- ・ 美術館の基幹機能については、今後も福岡市が中心的に担っていく必要があると思う。賑わい創出やサービス機能については、美術館や行政側では難しい面もあるため、民間の力を借りた方がよい。
- ・ 建物そのものを見に来る人もいると思うので、意匠性やアートを感じられる空間創出を重視した整備手法であるべきだと思う。
- ・ 設計段階において、どこまでが決め事でどこからは自由な提案が可能かを明確にしておくことはとても大事だと思う。
- ・ 建設を市でやる場合でも、運営事業者が意見を言える適切なタイミングを確保すると良い。
- ・ ウェブサイトやボランティア等の運営面の細かな役割分担にも留意していくべき。ソフト面の検討が後回しになりがちなので、他事例の調査をする際に一緒に含めて検討していくのが良いと思う。
- ・ より良い事業手法になるよう、他事例から学ぶ必要があり、事例調査、収集のプロセスは非常に大事。

以降は、アジア美術館 魅力向上に向けた基本計画の検討状況について、詳細に記載したもの。

1 アジア美術館の機能分担について

○アジア美術館の機能分担について

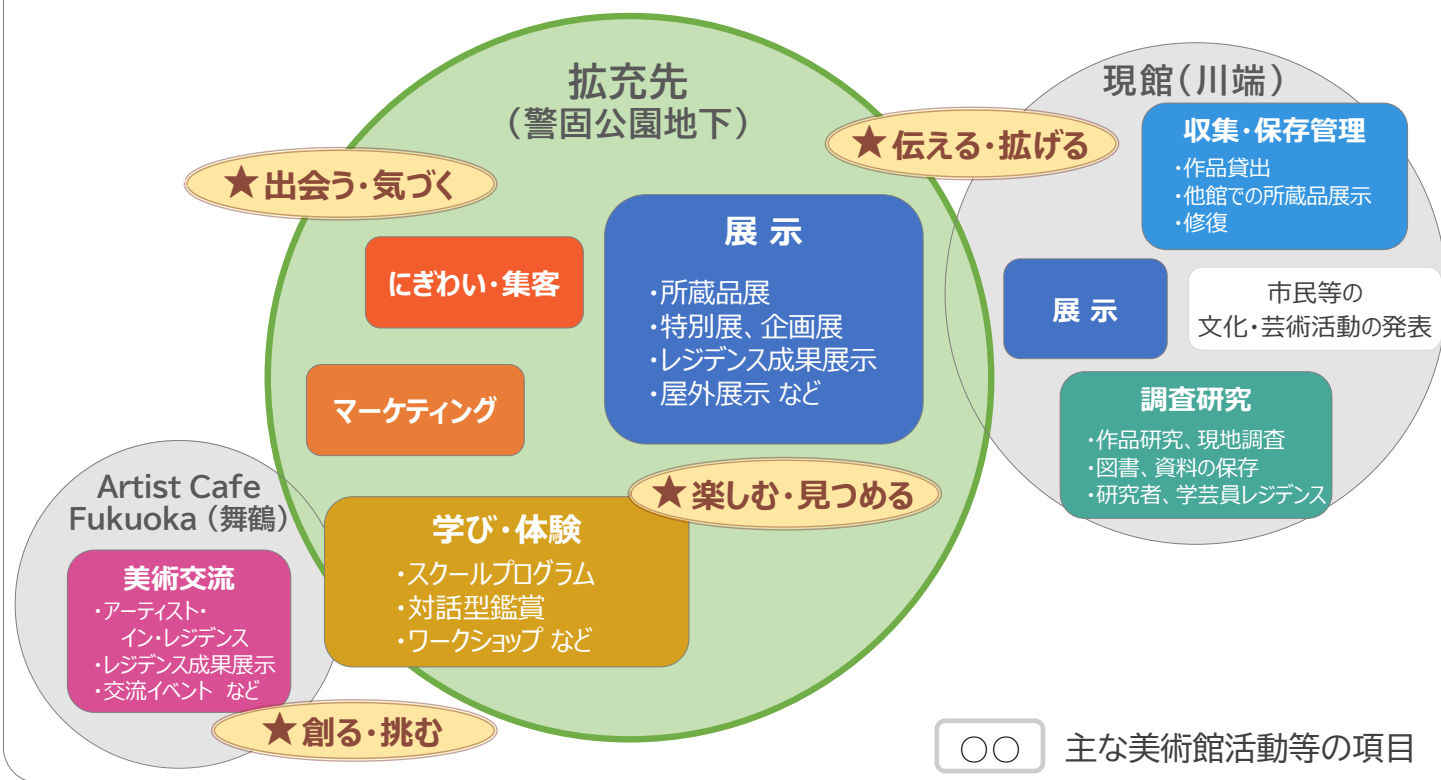
3館を連動させ、相乗効果を発揮するとともに、効果的な運営を図る。

3館の役割分担イメージ



3館での主な美術館活動等 と これからのアジア美術館の方向性(★)の分担イメージ

福岡アジア美術館



拡充先（警固公園地下）

アジア美術の出会いの中心地

- ・都心の核である天神の警固公園地下に展開し、アジア美術館の活動の中心として、**アジア美術を見せる新たな発信拠点**となることを目指す。
- ・美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として、心地良く過ごせる文化的な空間を創出し、天神の文化的魅力を一層高め、また、多彩な体験価値を昼夜提供することで、多様な来館動機を創出し、より多くの市民や国内外の観光客が気軽に訪れ、**アジア美術と出会い、気づく場**となることを目指す。
- ・**アジア美術を楽しむ**、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、**自分や世界を見つめる場**を目指す。

【導入する主な機能】

・展示機能

アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保する。

・学び・体験機能

楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について知る機会となる場を提供する。

・にぎわい・集客機能

展示機能と一体的に展開し、多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくる。

現館（川端）

アジア美術を深める研究拠点

- ・これまでの蓄積や現在の施設環境を活かし、収蔵、調査研究機能を拡充するとともに、拡充先での展示内容を支え、補完することで、**アジア美術の魅力を広く伝え、広げていく**。
- ・既存の展示室等を活用し、**市民をはじめ、美術活動者の文化発信ができる場**を目指す。

【拡充、継続する主な機能】

・展示機能

既存の展示室を活かし、作品の文化的な背景や調査研究の成果を踏まえた資料展示等を行い、来館者のアジア美術への理解を深めることで、拡充先での展示内容を補完し、相乗効果を得られるような展示を行う。

・収蔵機能

既存の空調システムや高いセキュリティを備えた設備を活用しながら、収蔵スペースを拡張し、コレクションを適切に保存・管理する。

・調査研究機能

アジア美術の学術的評価の向上のため、収蔵作品の調査研究を進める機材やスペースを整備するなど、研究環境の充実を図る。

アジア美術の研究に活用するため、これまで蓄積してきた調査資料等をより適切に保管・整理する。

・市民等の文化芸術活動の発表

市民をはじめ、美術活動者の**文化・芸術活動の発表の場**としてこれまで定着している利用のニーズが高いスペースについて、引き続き、確保する。

Artist Cafe Fukuoka（ACF）（舞鶴）

交流と創造の拠点

- ・**アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場**として、これまでのアーティスト・イン・レジデンス事業等の交流の活動を継続し、支援を続ける。
※ACFについては、R8年度までに施設拡充の見込み

2 拡充先における施設整備について

新たに施設を拡充する警固公園地下への施設整備について、以下のとおり整理する。

(1) 拡充先における施設整備の基本的な方針

1. まちをつなぎ、人をつなぐ 福岡の新たな顔

①公園との連携、一体化

- ・福岡の都心の真ん中にある、市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出し、まちへも広げる仕組みづくり

②まちの顔となる高い意匠性

- ・人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する施設
- ・外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等の整備

③まちづくりへの貢献

- ・周辺環境と調和しつつ、美術館と公園、まちをつなぎ、周辺施設とも連携しながら、都心部のアート、文化観光の核として展開できる施設

④地域との多様な連携

- ・周辺の施設や企業等と連携ができ、地域の回遊性やブランド価値の向上に貢献し、相乗効果を得られる施設整備

2. 持続可能で安心・快適な美術館

①環境への持続可能な配慮

- ・既存建造物の再利用をはじめ、省エネルギー機器の導入等、環境へ配慮した施設整備
- ・適切な維持管理等、持続可能な運営を実現する施設整備

②その他の視点

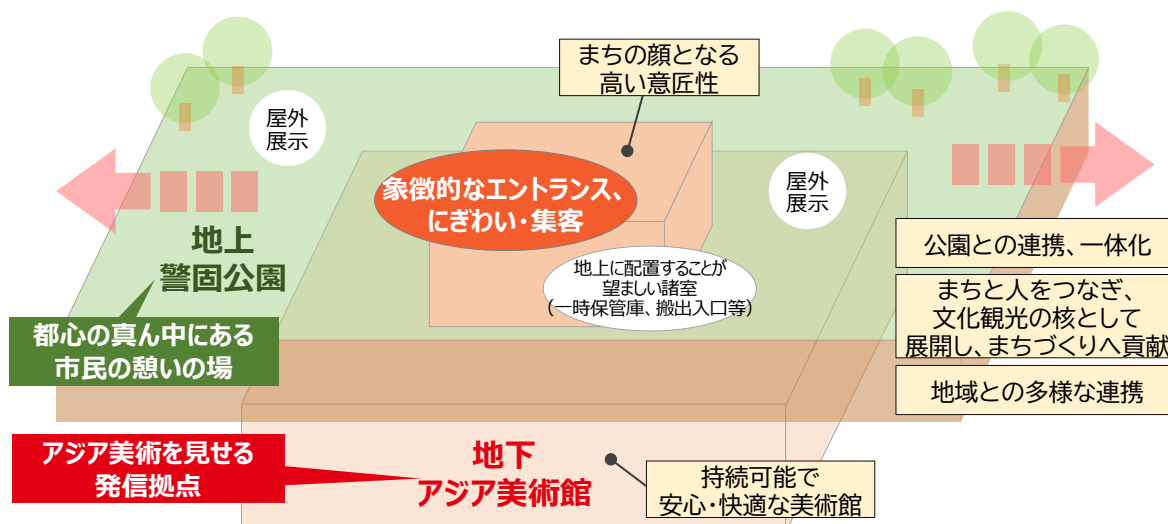
<快適に楽しめるユニバーサルデザイン>

- ・誰もが文化芸術を快適に楽しめる、バリアフリーやユニバーサルデザインの実現

<人と作品を守る高い防災性>

- ・来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間の特性を踏まえた浸水対策をはじめとする取り組みを進め、高い防災性能を確保する
- ・地上に一時保管庫を設けるなど、バックアップ機能を備えた施設
- ・セキュリティを意識した動線の取り方等、施設の防犯性能を確保するとともに、地域の安全安心にも貢献する施設整備

<空間構成イメージ>



(2) 諸室の考え方

美術館活動等	必要と考えられる機能 ※面積については目安。今後の検討により変更	主な諸室イメージ ※室名は仮称
展示	・アジア美術の傑作を中心に、小規模から大規模な展示やコレクション展に加え、多様な企画展や特別展等に柔軟に対応できる展示室 ・立体やインスタレーションなどの大型作品をダイナミックに展示できる空間を備えた展示室 ・複数のスクリーンによる映像作品や多様なメディアアートに対応できる設備をもつ展示室 ・多彩な現代美術作品を作品の搬入から展示、一時保管、搬出まで円滑かつ安全に行える動線の確保 約3,000㎡（うち ギャラリー 約2,000㎡）	・ギャラリー（映像ギャラリー含む） ・展示準備室 ・一時保管庫 ・搬出入口、トラックヤード 等
学び・体験	・展示やコレクションに関連したワークショップ活動、講座やセミナーなどのイベントを行う ・学校等の団体見学や対話型アート鑑賞等の受け入れを、説明や休憩等も含め、十分に対応できる空間 約600㎡	・多目的室 ・ワークショップ室 ・ボランティア室 等
その他の美術館活動	(調査研究)展示を行う際に必要な資料、図書を備える 招聘者等が滞在し、実際の展示を基に研究等を行う 約150㎡	・資料室、ライブラリー ・滞在用控室 等
	(美術交流)レジデンスアーティストの成果展示の開催（展示の一部）	(展示の一部)
エントランス、にぎわい・集客	・アートとの出会いを演出するアプローチやエントランス ・屋外においてもアートを感じられる空間 ・ナイトコンテンツやユニークバニユー等の活用も見込める十分な空間と、そういった利用にも対応できる作品保護やセキュリティを考慮した設備 約1,500㎡	・魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス ・ミュージアムショップ ・イベント等での飲食提供機能 等



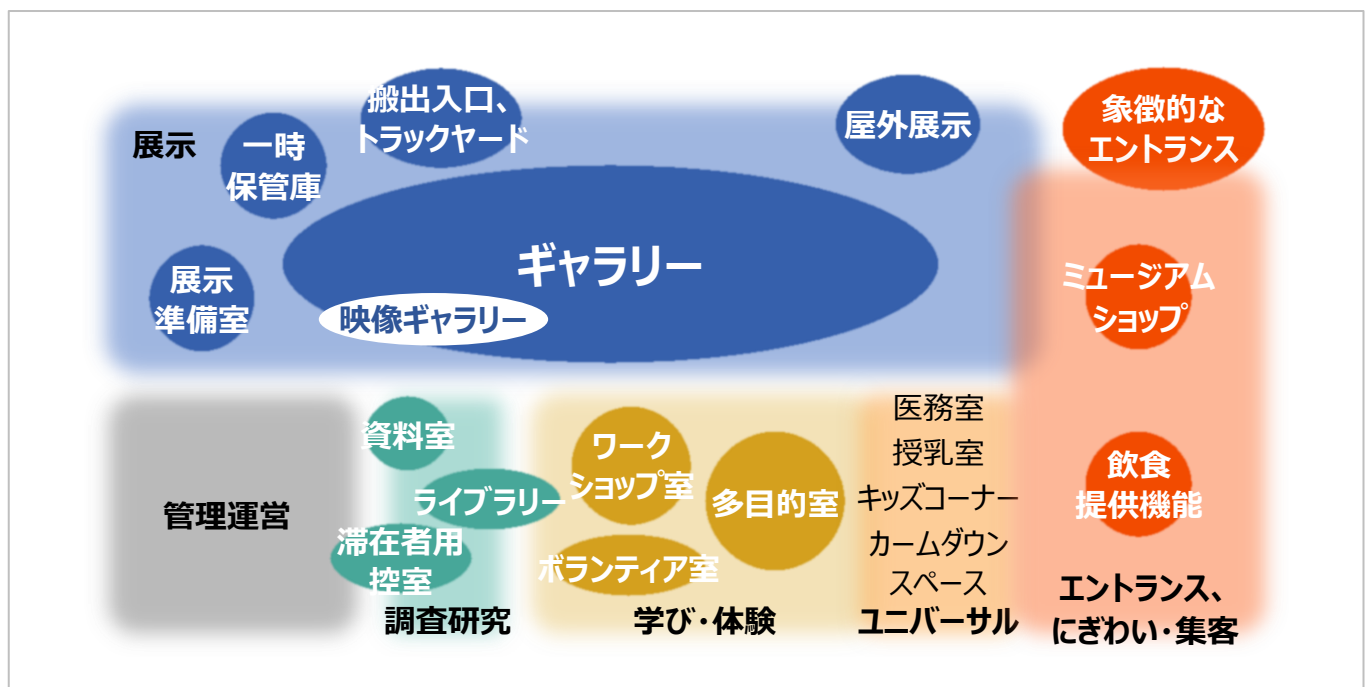
ユニバーサル関連の諸室イメージ

・医務室 ・授乳室 ・キッズコーナー ・カームダウンスペース 等

全体床面積(目安) 7,500～9,000㎡ (参考:現 地下駐車場の1層あたりの床面積 約4,900㎡)

※福岡市美術館の作品の活用等も今後の展示計画の中で検討

<諸室構成イメージ>



3 拡充先の利用計画

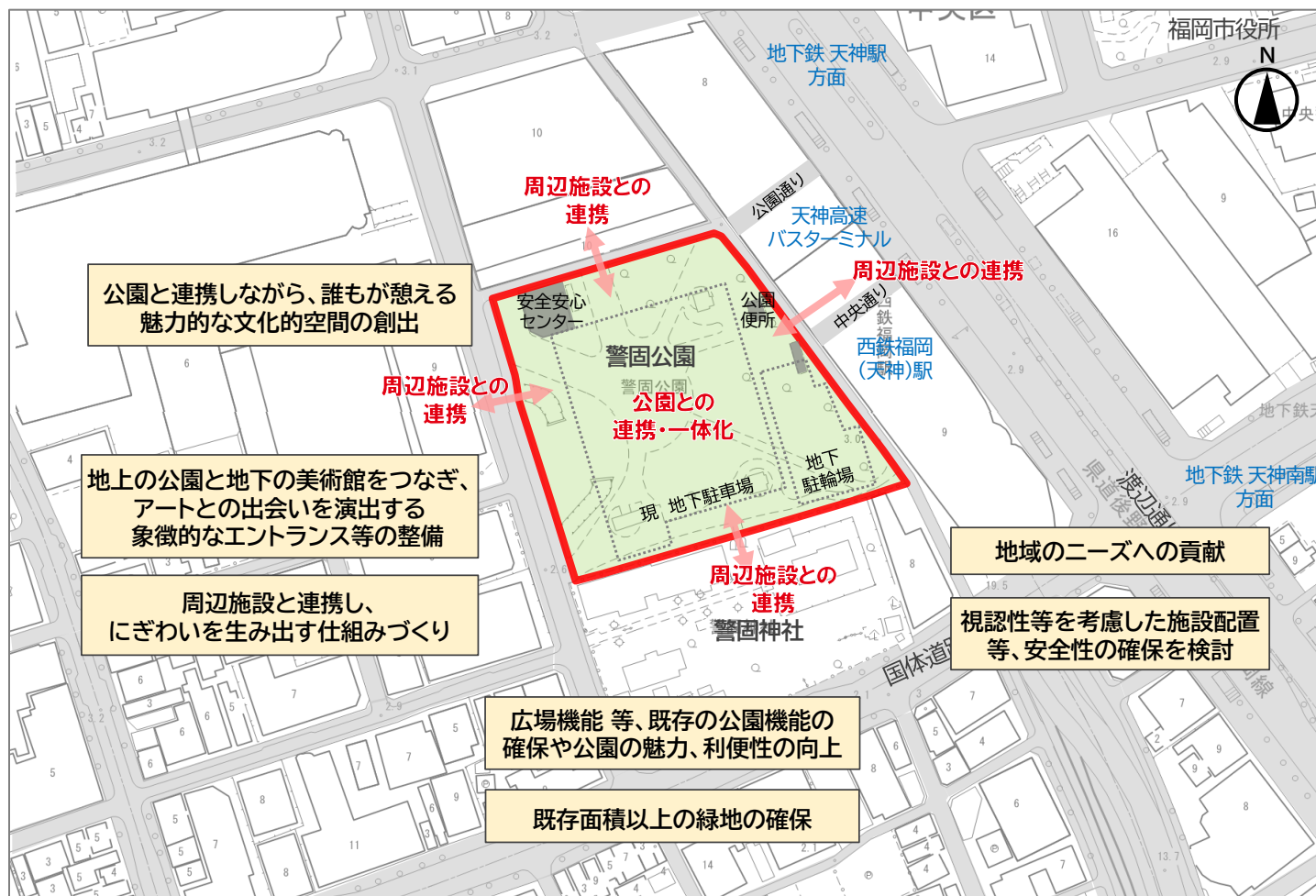
(1) アクセス（公園との動線等）等の考え方

項目	検討のポイント
来館者・公園来訪者のアクセス	・来館者にとってわかりやすく、交通結節点を踏まえた、地上・地下からの、円滑なアクセスの検討 ・現状の公園来訪者の動線や歩行者交通量を踏まえた、アプローチやエントランス等の施設配置の検討 ・ユニバーサルデザインに配慮したアクセスの検討
車両のアクセス	・周辺の道路事情を踏まえた、歩行者の安全に配慮した車両動線の検討（搬出入の車両、車いす使用者用駐車場 等） ・美術品等の搬出入時の利便性、セキュリティ等に配慮した車両動線計画



(2) 公園等との連携の考え方

項目	検討のポイント
公園との連携・一体化	・公園と連携しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間の創出（屋外展示 等） ・外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等の整備 ・既存の公園機能の確保（広場機能 等）や公園の魅力、利便性向上 ・周辺施設と連携し、にぎわいを生み出す仕組みづくり
緑地の確保	・既存面積以上の緑地の確保
地域のニーズへの貢献	・地域ニーズへの貢献ができる取組み
安全性の確保	・防犯面から視認性等を考慮した施設配置



4 施設拡充に向けた事業手法の考え方(参考)

(参考1) 想定される主な事業手法の例

- 直接整備方式 (従来型方式) …資金調達は公共が行い、施設の設計・工事・維持管理・運営を民間に分離分割発注する方式。
- DB方式 (Design Build) …資金調達は公共が行い、発注を受けた民間事業者が、施設の設計・工事を一括して行う方式。維持管理・運営は公共で実施もしくは民間委託を行う。
- PFI-BTO方式 (Build Transfer Operate) …民間事業者が施設を建設し、完成直後に公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理・運営する方式。
- 指定管理方式 …施設の維持管理・運営について、指定した民間事業者に実施させる方式。

(他都市美術館の例)

・DB方式



京都市京セラ美術館

・PFI-BTO方式



鳥取県立美術館

・指定管理方式



島根県立美術館

(参考2) 公園の活用事例

・屋外展示



福岡市美術館

・憩いの空間の創出



ひろしまゲートパーク

・立体都市公園制度(都市計画の変更)



宮下公園

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案	
① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）	—
② 警固公園地下及び地上部の活用方法	—
③ 事業範囲	—
④ 事業手法・事業スキームの考え方	—
⑤ 事業費の考え方	—
⑥ 想定する事業スケジュール	—
⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など	—
(2) その他の提案	
① アジア美術館現館に関する提案 1. アジア美術館「再出発」の基本方針の確認 実現できていないミッション A. 魅力向上のスローガン B. これからのアジ美 2. 再出発・魅力向上を成功させるコンセプト A. 「世界に類を見ない新しいミュージアム」を作る B. 「ポップ」な入口と「遊び」の役割 C. 現館は若年層をターゲットにアジアの文化に親しむ場所へ D. ネーミングとデザインのコンセプト 3. プロジェクトの概要 子ども、若年層、大人の誰もが利用できる場 A. カルチャートリップゾーン B. アジアンパーク C. フードコート D. マーケット 4. スキーム・予算・スケジュール	
② 公園への貢献に関する提案	—
③ 地域貢献に関する提案	—

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案	
① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）	—
② 警固公園地下及び地上部の活用方法	—
③ 事業範囲	—
④ 事業手法・事業スキームの考え方	—
⑤ 事業費の考え方	—
⑥ 想定する事業スケジュール	—
⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など	—
(2) その他の提案	
① アジア美術館現館に関する提案 コンセプト： 福岡市の特性、ロケーションの特性を有効活用し、アジア美術をより気軽に楽しめる場を広げるとともに、市民・観光需要の daytime stay を促進する アイデア1：博多3大祭りのイマーシブミュージアム 福岡市の代表的な伝統文化である「博多三大祭り」－ 博多祇園山笠・筥崎宮放生会・博多どんたく港まつり － を題材とし、それらの歴史的・民俗的価値を、最新の映像技術・体験型演出・現代アートの視点を交えて再構築する、イマーシブ（没入型）文化体験施設。 360° 映像インスタレーション（担ぎ手、参拝者） - 空間音響演出（祭りの掛け声・太鼓・人混み・風・火） - デジタルアート連動：自分の動きに応じて山笠が光る、どんたく隊列が進む等 アイデア2：福岡市における文化遺産(仏像、刀剣)の展示 博多という地は、古来より多様な文化が行き交い、仏教信仰と武士文化が交差する独自の歴史を育んできました。このミュージアムでは、博多が舞台となった信仰と武の融合をテーマに、キャラクターやアニメーション、体験型の要素を加えることで、仏像と刀剣がどのように共存し、互いに影響を与え合ってきたのかを楽しみながら学びます。 また、館内に仏像・刀剣の修復工房・保管庫を設けることで、博多の文化歴史のアーカイブ・保存機能を持つと共に保存修復のプロセスを垣間見学することができる見学ツアーも実施します。	

	1. 7F 福岡市に現存する仏像・刀剣の保管庫・修復工房 2. 7F 仏像・刀剣をキュレーションした展示 3. 8F 模造刀やシミュレーションゲームを使って日本刀を体感 4. 工房・保管庫ツアー アイデア3：アーティストおよびキュレーターのチャレンジを支える場所 若手のアーティストやキュレーターと福岡アジア美術館が共に展覧会をつくり、新進気鋭のアジアのアーティストの紹介や新しいコンセプトの提案を行うことで、新たなアジア美術表現の発見や展開を目指す。 1. 7F 展示室 →アジアのキュレーターによる企画展示 2. 7-8F →アジアの作家およびキュレーターのレジデンス 3. 定期イベント→キュレーターツアー
	② 公園への貢献に関する提案 —
	③ 地域貢献に関する提案 —

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案

① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）

[事業の方向性]

アジアの躍動感と創造体験で五感を広げる、アジアンアート没入体験型ミュージアム

[キーワード]

**市民とのつながりを強める＝アジア美術館やアートとの出会いを
“日常の中で” 増やす**

[事業方針]

1. いつでもアジアンアートに没頭体験 『DIVE !アート事業』
2. アジアのイマに多角的につながる 『LIVE !アート事業』
3. アジア各国の進化を楽しむ飲食物販 『SHIFT !アジア事業』

1. いつでもアジアンアートに没頭体験 『DIVE !アート事業』

■ アジア美術の世界観に没入にできる場

（例 イマーシブシアター、コミッションワーク等）

■ 気軽に創作体験&没頭できる場（例 常時利用可能な創作アトリエなど）

■ 鑑賞と想像力を刺激するライブラリー

2. アジアのイマに多角的につながる 『LIVE アート事業』

■ 「天神発・躍動する美術館」を強く発信（例 AFAPと連携）

■ 「アジア美術館の存在の見える化」

3. アジア各国の進化を楽しむ飲食物販 『SHIFT アジア事業』

■ 鑑賞以外の来訪目的をつくり、九州全域から集客

② 警固公園地下及び地上部の活用方法

賑わい創出と美術館としての集客性を高めるためには、警固公園との空間的連続性や、事業の連携が大切だと考えます。 ※「（2）その他の提案② 公園への貢献に関する提案」を参照

③ 事業範囲

市：これまで市が担ってきた事業、それらの延長線上にあるもの

※設計、建設：地下利活用に伴う各機関との調整、積算しきれないリスク補填

民：民間に委託等されていたもの、新機能など

※維持管理：なお、地下利活用に伴う設備系リスクの低減化は必須

④ 事業手法・事業スキームの考え方

運営重視のしくみで、持続可能な事業発展が目指せる制度設計が望ましいです。

・ PFI-BT0が望ましい。 ※民間の自由度が高く、運営重視型の事業手法

・ ショップ・カフェなども本体業務に含める [サービス対価+利用料金]

（例：賃借料や維持管理負担は無し/収益を事業に活用する提案を求めるなど）

・ 警固公園の管理運営業務は切り離す（公園管理者とは連携）

・ 事業期間中に発生する大型設備更新は事業範囲外・別途が望ましい。

	⑤ 事業費の考え方 ・ サービス対価＋利用料金制を軸に、自主事業のバランスが取れたしくみ ・ 市が期待する事業規模にあった予算をサービス対価で見込み、それを民間の知見と投資により一層充実化させる体制が組めることが望ましい。 ・ 利用料金以外の自主事業収入を利用者ニーズに合わせた＋αの事業拡充に活用するしくみ ・ 認知拡大を加速するため事業予算化（市の特別予算化・開館準備費） ・ 開館3年間程度など、光熱水費等維持管理費は実費精算とする。
	⑥ 想定する事業スケジュール ・ 開館準備業務は2～3年程度、運営は10～15年程度 ※中長期的に、持続的で成長基調の事業推進を目指す
	⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など ・ 継続される現館事業が集客の大部分を支えているため、現館・警固公園との連携、市の実現したい事業規模にあった事業設計・予算が重要。 ・ 前向きな提案条件となるよう、対話機会を通じて社会情勢への配慮を願いたい。 ・ 地下施設となるため、施設の視認性、開放性の確保、ユニバーサル対応の観点
	(2) その他の提案
	① アジア美術館現館に関する提案 —
	② 公園への貢献に関する提案 [事業の方向性] アジアンアートでエリアブランディング ・ アジアンアートパークとして、パークドレッシング＋エントランスアイコン作品の設置 ・ 美術館事業の地上へのにじみ出し (展覧会関連事業を公園内で実施、アジア各国のイベント毎月定期開催等)
	③ 地域貢献に関する提案 —

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案	
① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）	警固公園地下に福岡アジア美術館を拡充するにあたり、「公園＝美術館」として相互の役割が互いに浸透し、両者の境界がグラデーションのように変化する計画を提案します。公園と美術館の間に半公共空間を設けることで緩衝材とし、公園の価値向上と美術館への集客に寄与すると考えました。
② 警固公園地下及び地上部の活用方法	警固公園の円形配置のデザインを継承した直径 100mのサークル状構造物を地上部に設置し、美術館ファサードとしての役割と警固公園への付加価値を創出します。地下部は2層に分け、地下1階を現在の三越からの連絡通路を利用した公共通路とし、新たな回遊性を生み出すとともに、貸ギャラリーや地下2階の展示室を覗くブリッジにより、アジア美術と人々との偶発的な出合いを拓けます。地下2階は本展示室とし、既存躯体を利用したシンプルな平面とすることで、最新の展示方法の活用など、ソフト面での工夫を行いやすい計画としました。
③ 事業範囲	—
④ 事業手法・事業スキームの考え方	—
⑤ 事業費の考え方	—
⑥ 想定する事業スケジュール	—
⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など	—
(2) その他の提案	
① アジア美術館現館に関する提案	—
② 公園への貢献に関する提案	—
③ 地域貢献に関する提案	—

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案

① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）

アジア近現代美術は、西洋中心の価値観に代わるオルタナティブとして、多様性や社会的処方箋を提示する存在である。福岡アジア美術館（FAAM）は、アジア近現代美術が持つ「新しさ・驚き・発見」を体現し、その価値を都市へ発信する拠点として、警固公園地下の特殊空間を活かした魅力向上を目指す。そのためには、以下の三点が不可欠であり、ハード・ソフト両面の取り組みにより、FAAMの独自性と時代性を強化し、持続可能で魅力的な美術館運営を実現する。

1. 建築的魅力を備え、都市の資産となること
2. エンタメ性を高め、ブランドやカルチャーと連携し集客・収益を生むこと
3. 適正規模の運営設計により、映像・音楽など多様なコンテンツに対応すること

② 警固公園地下及び地上部の活用方法

FAAMは質の高いアートを持ちながら、市民・観光客にとって身近な存在になっていない。そこで、警固公園地下と地上部を「アートとエンターテインメントが交わる場」として再整備し、アートに関心のない層にも自然に触れてもらう機会を増やすことを提案する。

地下空間は駐車場の記憶を活かしつつ、美術館機能に支障のないデザインとし、展示・イベント・飲食を組み合わせた賑わい空間へ。地上部にはFAAMの入口やサインエージ等を設け、街とのつながりを強化する。

その上で、

【提案①】街や他施設との連携により美術館にアクセスする機会の創出

- ・ 警固公園（地上）に入口や情報発信機能を設置し、来街者へ訴求
- ・ 地上と地下をつなぐ大きなホワイエを整備し、回遊を促す

【提案②】FAAMの特徴となるホワイエを活用することによる来館目的の多角化

- ・ 地下スペースを活用したアジア美術とエンターテインメントの融合
- ・ 飲食機能の導入やライブ、上映会、夜間開館など、多様な目的の来場を促し潜在層の認知を拡大

これにより、昼夜を問わず人が集い、偶然にアートと出会える「アジアの地下広場」として、新たな都市文化の拠点を形成する。

③ 事業範囲

- (1) FAAM（現館と拡張部）と警固公園との連携業務
- (2) 警固公園の活性化と指定管理

④ 事業手法・事業スキームの考え方

FAAM部とも公共で運営し、警固公園の活性化を含む魅力向上の実施を民間事業者とする。P-PFI、借地、立体都市公園等の手法を組み合わせることにより収益施設を公園内に設置し、収益の一部をFAAMの魅力向上施策に還元する。

⑤ 事業費の考え方

【初期投資】

FAAMの整備、警固公園の整備は公共負担とし、収益施設の整備は民間負担とする。（あるいは、収益施設も公共で整備し、民間へ運営委託/賃貸借する）

	【ランニング費用】 FAAM の運営・維持管理費、警固公園の維持管理費は公共負担とし、収益施設の収益の一部を FAAM の魅力向上および警固公園の維持管理及び活性化に活用。 ⑥ 想定する事業スケジュール 未定。FAAM（拡張部）と警固公園地上部での取り組みの同時オープンを想定。 ⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など ○建築規制に関する課題と要望 ・本計画の鍵は、公園と地下空間全体を魅力的な文化拠点へ再生することであり、駐車場の痕跡を活かしたデザインが不可欠。 ・しかし、公園の建蔽率制限が大きな制約となっており、十分に検討できない。 → より多様なアイデアを実現するため、建蔽率緩和や「借地＋立体都市公園制度」など柔軟なスキームの導入を要望。 ○推進体制に関する要望 ・魅力的な空間づくりには、初期段階から建築家・デザイナーを参画させ、創造的な案を選べる意思決定体制が必要。 ・要件遵守だけの判断では平凡な空間になる恐れがあり、天井高が十分でない本空間では特にデザインの質が重要。 → デザインを都市資産と位置づけ、魅力と収益性を両立させる柔軟な判断体制の構築を求める。 （２）その他の提案 ① アジア美術館現館に関する提案 展示・賑わい機能を担う警固公園地下と役割を分担し、現館は「アジア美術の知のハブ」としてリサーチとラーニング機能を強化する。 ○アジア美術リサーチセンターの設置 研究機関と連携した国際水準の調査・研究拠点化 アーティスト／キュレーター／研究者など多様なレジデンスを受け入れ ○学習・ラーニング機能の拡充 公開リサーチ・セミナーを実施し「知のオープンラボ」を形成 学校・大学と連携した授業・ワークショップへ展開 ○国際ネットワークの拠点化 アジア各国の美術館・研究機関の分室／ビジティングデスクを受け入れ 国際フェロシップや研究者の循環を促進 ○市民とつながる場の創出 保管スペースの公開など、既存資産を活用した開かれた施設運営 ② 公園への貢献に関する提案 天神中心という立地を活かし、公園を立体的に整備して地上と地下を一体的に活用し、日常的なにぎわいと文化的価値を高める。地上のマーケットやポップアップ、地下のイベントや飲食機能により多様な来訪目的を生み、ブランド活用による収益性も期待できる。また、大規模ホワイエは災害時の避難機能を担い、継続的なにぎわい創出によって防犯面の改善にも寄与する。 ③ 地域貢献に関する提案 公園と地下空間をつないで日常的にアートに触れられる場をつくり、子ども向け教育や学校連携を強化する。また、福岡の地理的優位性を活かした国際交流・レジデンス事業を進め、公共性・教育性・国際性の面から地域に貢献する。
--	---

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案

① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）

【現状認識】

- ・価値観の多様化→多様なニーズを受け止める場が求められる
- ・都市間競争の激化→独自性を持ったまちづくりが重要に

【これからの活動に必要な場とは】

これまでの活動をベースに、**より多くの人に親しまれ「賑わいをうむ」場**
 目的地となり、地区の価値を高め、**文化的多様性を「育み伝える」場**
 アジア美術を切り口に、多くの人を惹きつけ、**多様な「交流の舞台」となる場**

【コンセプト案】

天神がアジアの交流拠点に

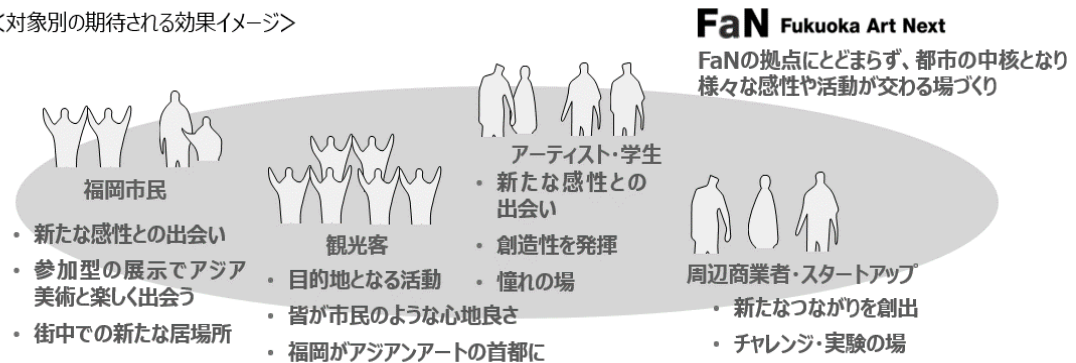
Over Crossroad Museum オーバークロスロードミュージアム

- ・独自の芸術性で枠を**超える**・歴史を**超えて**届ける（オーバーover）
- ・美術に携わる「人」の**交流**・街と美術館の**交差**（クロス cross）
- ・文化を伝播したシルクロードのような役割に・**道**を歩くだけでアートに触れる（ロード road）

【機能イメージ】

アジアの芸術との出会い×創造的な体験×感性の融合＝OverCrossroad Museum

<対象別の期待される効果イメージ>



② 警固公園地下及び地上部の活用方法

【地下部】各機能が互いに染み出し、時に拡大・伸縮し変化し続ける

【地上部】各所に現れるサテライト、活動が染み出し、賑わいを生む

- ・インパクトがあり、名所となるエントランス空間
- ・公園の機能を保持しつつ、ベンチや遊具が地下の接点として存在
- ・図書屋台、アート屋台、アクティビティ屋台

③ 事業範囲

現段階の情報では投資対効果・事業性が見えないため今回は回答を控えます。

④ 事業手法・事業スキームの考え方 ・地下美術館については、展示スペースやバックヤードとして大部分が占められ、民間収益スペースが限定的であるため、整備・運営コストについては基本的に行政負担とし、民間は指定管理者制度により運営を受託する形が望ましい。 ・地上部の利活用については Park-PFI を活用し、建ぺい率上限を 12% として民間収益性を確保するとともに、公園の維持管理を行う。
⑤ 事業費の考え方 現段階の情報では投資対効果・事業性が見えないため今回は回答を控えます。
⑥ 想定する事業スケジュール 開館後の運営を円滑にするため十分な開館準備期間が必要。 1 年目…制度設計、事業者選定、事業契約 2 年目…基本設計、実施設計、準備工事、コンテンツ制作、気運醸成、地域連携 3～4 年目…建築工事、展示制作、開館準備 5 年目～ …運営（15 年）
⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など 【課題】 1. アジア美術館が目指す目標と民間収益性確保の両立が困難 2. 警固公園は天神中心部に位置しながら、集客イベントがあまり開催されていない 【要望】 1. 地下美術館の整備や運営にかかるコストは原則行政負担。 2. 官民連携し、安心・安全に楽しめる集客・賑わい創出の場を実現していきたい。
(2) その他の提案
① アジア美術館現館に関する提案 現館と新館と相互に補完して活動を拡大・深耕 1. 拡充スペースとの 2 拠点で連携した展開を図る (2 拠点でひとつのアジア美術館として打ち出す) 2. 拡充スペースと現美術館の役割を明確にする (拡充スペース：幅広い層にアジア美術に関心を持つきっかけを提供 現美術館：より深くアジア美術を知ってもらう場として活用)
② 公園への貢献に関する提案 1. <u>公共空間の治安向上への貢献</u> 官民連携の安全・安心の取組（防犯パトロール等）をおこない、警固公園に集まる子どもたちを守る取組に参加する。 2. <u>Park-PFI 制度で得た収益を公園整備の一部に充当し、維持管理に寄与する</u> 警固公園地上部の収益施設で得られた利益を、トイレ等の公園施設の整備にあて、快適な公共空間の環境整備に貢献する。
③ 地域貢献に関する提案 地域の賑わい創出への貢献 1. 天神ビッグバンの竣工ビルと連携し、回遊性の高いアートスポットとして P R 2. 周辺施設と連携し、イベントや周辺施設一体となった P R 活動の実施

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案	
① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）	—
② 警固公園地下及び地上部の活用方法	・ 警固公園地上部を「アートから始まる交流拠点」として運営すること。 ・ そのために必要な施設を整備すること
③ 事業範囲	—
④ 事業手法・事業スキームの考え方	・ 施設整備と運営を一体の事業とすること。 ・ 警固公園地上部の運営には指定管理者制度を採用すること。
⑤ 事業費の考え方	—
⑥ 想定する事業スケジュール	—
⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など	—
(2) その他の提案	
① アジア美術館現館に関する提案	—
② 公園への貢献に関する提案	・ 警固公園地上部の運営業務として、市民等と連携したイベントの実施を業務範囲に含めること。 ・ 事業費については指定管理料と自主事業収益を併用すること。
③ 地域貢献に関する提案	—

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案

① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）

【展示】

- ・コレクションの内容、展示の方法、空間やデザイン、運営体制など、あらゆる課題を洗い出し、具体的な解決策を検討する必要がある。
- ・世界的にも注目され文化度の高い巡回展の誘致も検討すべきと考える。多くの市民に文化的体験の機会を提供し、文化リテラシーが底上げされることで、コレクション展示を含めた来館者の恒常的な増加が期待できる。

【空間・デザイン】

- ・人を惹きつけるような、国際的に認知・評価される先進的なデザインが必要。美術館そのものが都市のアイコンとなるような存在感を持つことが求められる。

【既存躯体活用】

- ・世界的な巡回展を誘致するためには、コレクション展示スペースとは別に2,000～3,000㎡の企画展スペースが必要になる。
- ・既存躯体活用は、新築と同等かそれ以上のライフサイクルコストがかかる可能性があるため、コストの面においても合理的な方法を検討していきたい。

【賑わい施設】

- ・美術館や公園といった単体整備にとどまらず、都市・エリア全体の課題解決と魅力向上の機会として、必要な機能や空間を広い視点で検討すべきである。
- ・増加するインバウンドや消費を牽引する来街者を満足させる、公共性と文化性を備えた機能が他都市に比べ不足している。
- ・文化的接点を提供し体験価値を高める機能を強化すれば、天神エリアの魅力は向上し、幅広い層を惹きつけられる。

② 警固公園地下及び地上部の活用方法

【公園】

- ・商業エリアに立地するパブリックスペースとして、その価値を最大限に引き出すためには、従来の公園の使い方に加えて、より多様な使い方ができる場をつくる必要がある。商業エリア中心地にあるオープンスペースとしての特性を活かし、例えばブランドなどが求める新作発表やPR、ファッションショーといったイベントでの利用を積極的に検討

【デザイン】

- ・国際的に認知・評価されるような先進的なランドスケープデザインを実現することで、市民の誇り（シビックプライド）につながる空間をつくることができる。

③ 事業範囲

—

④ 事業手法・事業スキームの考え方

土地：民間企業による借地

建物：民間事業者による建設（解体については福岡市負担）

美術館スペース：民間事業者による整備＋福岡市による賃貸借或いは
当該スペース工事費の福岡市負担

借地/事業期間：60年間（公園・建物完成後）

制度：立体都市公園制度活用など

	⑤ 事業費の考え方 —
	⑥ 想定する事業スケジュール —
	⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など ・既存躯体の活用は実現すべきと考える一方で、企画展スペースの確保や魅力的な空間実現の弊害となる場合は、活用範囲を縮小することや、バックスペースの一部を現在のアジア美術館スペースに設置する等、柔軟な計画を検討してほしい。
	(2) その他の提案
	① アジア美術館現館に関する提案 —
	② 公園への貢献に関する提案 ・オープンスペースに加え、植栽豊かでパブリックアートが点在する散策路から構成される多様なランドスケープや、デザインやアートに関するイベントや、周辺エリアの商業店舗のイベント等、自然・文化・賑わいが融合された体験の場を設ける。
	③ 地域貢献に関する提案 ・交番の配置や警備員の巡回による抑止だけでは、夜間の安全性・健全性担保に限界があり、賑わい施設の設置（店舗・ホテル等）によって、公園全体に見守りの機能を持たせる。 ・防災機能強化や夏季利用の対応として、公園に屋根付きのスペースを設ける。

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案

① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）

警固公園の地上部へ集客と賑わい創出に向けた提案

拡充先の“警固公園”での地上の賑わい創出に向けて以下を提案。

●Park-PFI を活用した警固公園、地上部に敷地面積に対して、10%～20%の施設を建築。

●収益性と公益性を兼ね備えた都市公園造り、都市公園としての付加価値向上。

●屋根付き施設を建設し、日陰の設置に全天候対応可能な設計

●緑化面積の拡大による、心地良さ向上での滞在時間、利用頻度の向上

●地上部施設及び地下部美術館拡充先をユニークベニュー活用による MICE 誘致を行い、周辺地域や福岡市内の経済効果の創出

●MICE 誘致にあたっては、その背景やニーズや課題を把握し、都市公園

施設を活用した以下の賑わい創出

●通年イベントの更なる磨き上げ、アップグレード

●平時は交流拠点として活用

●新規イベントによる賑わい創出

●福岡アジア美術館と連携した、先駆的な取り組みを市民への周知拡大

魅力向上に資する機能の拡充 ナイトコンテンツやユニークベニューとしての活用

●地上部・地下部・エリア一帯での賑わい創出

エリア MICE を推進し、観光消費額の増大、地域経済普及効果。

福岡アジア美術館も連携・連動による“アートプレイス”の実装

●“天神の中庭”の空間演出、利便性を活かし警固公園地上部と地下部が観光資源として新規創出、アジア圏を中心としたインバウンド需要拡大を目指す。

② 警固公園地下及び地上部の活用方法

福岡天神の都市空間全体を MICE フィールド化とし、地域・企業・インバウンドが連携することによって、次世代ビジネス・文化・アートクリエイターの交流拠点として世界に発信していくことにより、アジア美術館・警固公園を起点とした、福岡の街全体に新たな交流の広がりができる活用を提案。

③ 事業範囲

場所：警固公園地上部 業務：福岡アジア美術館含む、ブランディング設計・施設設計・建設・空間デザイン・開業準備・施設運営・管理

④ 事業手法・事業スキームの考え方

—

⑤ 事業費の考え方

—

⑥ 想定する事業スケジュール

企画・設計 12 ヶ月、建設 18 ヶ月、開業準備 6 ヶ月の計 36 ヶ月を想定。鉄骨造の比較的シンプルな構造であり、工期短縮も可能。関係機関との事前調整により円滑な進行を図ります。

	⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など —
(2) その他の提案	
	① アジア美術館現館に関する提案 —
	② 公園への貢献に関する提案 —
	③ 地域貢献に関する提案 ●海外の成功事例を参考とした、まちまるごと MICE「アートと文化・ビジネスをつなぐパーク MICE」を掲げ、警固公園エリアの他施設や企業と連携した組織形成。海外の取り組みを参考した導入を検討。 ●有事の際の【防災の場】として、当該立地環境である、交通機関の中心部・商業エリアという観点から「帰宅難民」への TKB を兼ね備えた防災強化も平行して図り、都市公園としての更なる価値向上に繋げる

提案概要書

(1) 拡充先である警固公園地下及び地上部におけるアジア美術館の事業提案	
① 魅力向上に資するアイデア、事業展開（コンセプト等）	弊社が提案する内容は別紙提案書のとおり、主にコンセプトです。 当初、デザイナー、あるいは建築家と一緒に具体的なデザインを盛り込んだものも検討しましたが、それにはデザインなどを作成してもらうためのフィーが必要となります。設計コンペなどでどのように、採用されればそのフィーを支払うことができるというような事案でなかったもので、それらは見送りました。
② 警固公園地下及び地上部の活用方法	地下部分についての美術館は、幅広く多くの人が楽しめるアジア美術館のための施設であり、そのために常設展示部分と企画展示部分を持ち、更にフリースペースがあるといいのではないのでしょうか。アジア美術現館にアートカフェというスペースがあるように、比較的広めのフリースペースがあれば、イベントがない場合はカフェの延長部分として使われます。イベントがあればその会場としてアニメ作品の映画上映なども可能です。警固公園の地下ということであれば、悪天候、あるいは猛暑の場合の公園に代わる憩いの場を提供することができます。また、そうすることで一歩アジア新美術館内に足を踏み入れていただくことによって、アジア美術に興味を持っていただくことが可能になります。 床面積の問題があれば、例えばフリースペースにある、カフェ部分とショップ部分を2層にすることも考えられます。それと天井高が美術館と同様の部分があれば、その壁面を使って映画の上映も可能ですし、そのようなデザインができればいいのではないのでしょうか。 常設展示部分と、企画展示部分の分け方には設計上のこともありますが、アジア新美術館に継続的に来館者を呼ぶことを考えれば、常設展示だけでは難しいと思われます。日本全国どこの美術館も常設展示だけで来館者を呼び続けることに成功した例はありません。多くの来館者は新しいもの、今までに見たことがないものに興味を持つからです。しかしながら新しいものが、来館者に知られていないものであればそれも難しいでしょう。美術館来館者の多くは、知っているアート作品の「本物」を見に来るのですから。 地上部分については、何かしら美術館の存在を示すモニュメントのようなものが必要になるでしょう。アジア現美術館は複合施設の中にあるため、エントランス部分の黄色の構造物と、そこから入館する直通エレベーターでそれが表現されています。美術館が地下にあるということは、そこに入るための象徴的なゲートを作ることが難しいと想像され、その代わりに地上の公園部分にそこが美術館であるというモニュメントが必要です。例えば青森県立美術館にある奈良美智さんの「青森けん」のような作品があれば、わかりやすく美術館の存在をアピールし、更にはそれ自体を目ざして公園を利用する人も多くなると考えられます。 季節のいい時期にはそのモニュメントの周りで、公園利用の人がアートを鑑賞しながら憩うことが想像されます。
③ 事業範囲	—
④ 事業手法・事業スキームの考え方	—

	⑤ 事業費の考え方 —
	⑥ 想定する事業スケジュール —
	⑦ 提案にあたっての課題や市への要望など —
(2) その他の提案	
	① アジア美術館現館に関する提案 アジア美術館現館はすでに国内外に於いて、アジア近現代美術については圧倒的な存在感を持っています。その専門性を活かしてのコレクションや展示活動が何よりもの強みだと思います。 しかしながら、その伝え方についてはわかりやすい展開も必要ではないでしょうか？ 美術館では、多くのアーティストの作品を展示する展覧会（いわゆる五目の展覧会）と言われていますが、多くの場合、個展形式の方が来館者が多くなる傾向にあります。個展形式だと、そのアーティストの人生から、その生い立ち、境遇、アートに対しての捉え方など多くの人が共感できる、人間としての部分が表現可能だからです。
	② 公園への貢献に関する提案 公園から地下美術館へのルートはいくつもありますが、その一つ一つを違うアーティストに依頼してデザインされたものを作れば、公園のフォトスポットになり、公園利用者の楽しみにつながります。 そのそれぞれのアーティストは、イスラム教を代表するインドネシアから、ヒンドゥー教を代表するインドから、キリスト教を代表するフィリピンから、仏教を代表する日本から、などというように選出すると、公園利用者に美術館へ促す契機となり、アジアには多様な宗教観、文化が存在することを、暗に表現できると考えます。
	③ 地域貢献に関する提案 福岡市の「彫刻のあるまちづくり事業」の一部、天神から中洲川端までは新宮晋作品を始め、多くのパブリック・アートが設置されています。新しくできたワンビルにもレアンドロ・エルリッヒ作品「ピクセルツリー」やニコライ・バーグマン作品「フューチャーブルーム」などの魅力的なパブリック・アートが設置され、更に館内のエスカレーターホールには鹿児島陸の壁画作品があります。アクロス福岡前には菊竹清文作品など、多くのパブリック・アート作品がすでに存在します。これらを天神から中洲川端へ結び、福岡アートロードのような形で紹介することはできないでしょうか？ 新旧アジア美術館は徒歩圏内であり、それらをアートで繋ぐことで地域貢献ができると考えます。 アクロス福岡の建築自体がアート作品でありますし、福岡市庁舎の建築は先の菊竹清文の兄である菊竹清訓であり、彼は九州国立博物館も設計しました。 福岡市役所前の広場では音楽イベントも多く開催され、旧福岡県公会堂貴賓館前の天神中央公園でも多くのイベントが開催されています。 そういったイベントと福岡アートロードでアートナイトのようなイベントも考えられます。そういった事柄を繋げながら、新旧アジア美術館をつなげ、さらなる魅力向上に寄与し、地域貢献ともなるでしょう。